

山しろのこまのわたりの、うりつくり、なよやらいしなや、さいしなや、うりつくり、うりつくりはれ。○下

〔兼盛集〕夏大監物なる時、御こき侍しに、内侍所に参りたりしに、いとおかしげなるこうりをつみみて、いだしたりしかば、

山城のこまのわたりをみてしかなうりつくりけん人の垣ねを

〔山城名勝志〕二十相樂郡蟹幡郷和名抄云相樂郡玉水町南平尾村北有綺田村

〔日本書紀〕垂仁三十四年三月丙寅、天皇幸山背時、左右奏言之、此國有佳人、曰綺戸邊、姿形美麗、山背夫國不避之女也。略○中

仍喚綺戸邊納于後宮、生磐衝別命、

〔今昔物語〕十六山城國女人依觀音助遁、蛇難語第十六

今昔、山城ノ國久世ノ郡ニ住ケル人ノ娘、年七歳ヨリ、觀音品ヲ受ケ習テ讀誦シケリ、略○中

其ノ後、蛇ノ苦ヲ救ヒ、多ノ蟹ノ罪報ヲ助ケムガ爲ニ、其地ヲ掘テ、此蛇ノ屍骸ヲ埋テ、其ノ上ニ寺ヲ

立テ、佛像ヲ造リ、經卷ヲ寫シテ、供養シツ、其寺ノ名ヲ蟹滿多寺ト云フ、其ノ寺于今有リ、其レ

ヲ世ノ人和カニ紙幡寺ト云フ也ケリ、本儀ヲ不知ザル故也、

〔中右記〕寛治六年二月八日辛酉、辰時許於加波多河原、暫留御馬、前駟皆下、自馬候左右、

〔山城名勝志〕二十相樂郡祝園郷和名抄云相樂郡今木津川西端下祝園三村

〔日本書紀〕五崇神十年九月、彦國葺射埴安彦、中曾而殺焉、其軍衆脅退、則追破於河北、而斬首過半、屍

骨多溢、故號其處曰羽振苑、

〔續日本紀〕十三聖武天平十二年十二月戊午、從不破發至坂田郡橫川頓宮、是日、右大臣橘宿禰諸兄、在前

而發、經略山背國相樂郡恭仁郷、以擬遷都故也、

〔山城名勝志〕二十相樂郡岡田郷離宮、山